

資料2 障害児通所支援事業所連絡協議会（仮称）の設立について

1 提案の経緯等

市内の障害児通所支援事業所は年々増加傾向にあり、令和3年12月末時点で43事業所あるが、事業所の増加に伴い、各事業者からの福井市に対する相談、障害児通所支援事業所が抱える課題なども多種多様化しており、それらの課題解決などへの早期対応が難しい状況となってきている。

このため、こども部会として事業者が抱える課題を検討し、課題解決に向けた取組に繋げることができよう、また、福井市と全事業者がより一層連携して障がい児支援を行うことができるよう、障害児通所支援に関する課題を検討する場として障害児通所支援事業所連絡協議会（仮称）を設立したい。

2 現状・課題

No	現 状
	課 題
1	任意の障害児通所支援事業所連絡会が存在する
	・任意団体であり、参加している事業者は一部であることから、全体の課題として把握しにくい
	・全事業者が参加している状況ではないことから、福井市としても全体の課題を把握しにくくなることが想定される
	・連絡会として、こども部会の課題検討の場として位置づけることに多くの課題を感じている
2	こども部会において障害児通所支援事業所に特化した地域課題が複数取り上げられている
	・こども部会においては、障がい児を取り巻くあらゆる課題に対応する必要があることから、障害児通所支援事業所としての課題を検討する場としては適当ではない
	・部会委員は多方面の分野の方々に参加しているため、障害児通所支援事業所に特化した課題に対する検討は難しい
3	複数の事業所が同じような課題を抱えている
	・一部の事業所のための課題なのか、多くの事業所としての全体的な課題なのか把握しにくい
	・課題に対して、福井市と事業所が一体となってどう対応していくか協議や検討する場がない
4	障害児通所支援事業所間の繋がりが少ない
	・こども部会の研修などを開催した際に、事業所間の繋がり（情報の共有・伝達）が不足している旨の意見が寄せられている
	・各事業所の取組や方針が異なることがあるため、事業者が全体の課題に対して積極的に取り組む意識を持ちにくい
	・事業所間の情報共有等で解決できる課題であっても、早期解決に繋がらない場合がある

3 障害児通所支援事業所連絡協議会（仮称）の概要

- (1) 構成メンバー
- ① 構 成 員 各障害児通所支援事業所の児童発達支援管理責任者：1名（合計：43人）
 - ② 代 表 上記構成員の中から1名選出（任期：1年）
 - ③ 地区役員 事業所の所在場所を4地区に分け、各地区から1名選出（持ち回り制）
 - ④ 事 務 局 福井市障がい福祉課（児童発達支援センター機能強化事業として実施検討）
- (2) 開催頻度
- 年4回程度
- (3) 役 割
- ①事業所間のネットワーク構築
 - ②課題整理・検討
 - ③研修会・勉強会の開催
 - ④こども部会への情報提供 など

4 設立による効果（左記2に対応）

No	効果
1	・全障害児通所支援事業所が協議会のメンバーとなるため、全体の意見の抽出が可能になる
2	・事業所に特化した課題について、こども部会から連絡協議会に対応を依頼することができる
3	・福井市が事務局となることにより、福井市と事業所が連携して課題への対応ができる
4	・事業所間の繋がりができ、情報共有等が深まることで、早期の課題解決に繋がる ・事業所としての課題が全体の課題として取り組むことで、意識の醸成に繋がる

5 今後の予定（案）

時期		内容	
3月	下旬	こども部会体系図（案）の作成	事務局と部会長にて作成
4月	下旬	令和4年度第1回こども部会の開催	体系図（案）の説明・承認
5月	下旬	全事業所への集団指導及び説明会の開催	全事業所への説明
6月	上旬	協議会の運用開始	代表・地区役員等の候補者選考
	下旬	第1回連絡協議会開催	代表・地区役員選出・方針確認